

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|--|---|--|--|
| | | 12/20 （12/13との比較） | 12/20 （12/13との比較） | 前年比 （※3） | 先週末 | | |
| | | 今後の見通し （※4） | 今後の見通し （※5） | 景気の方向性 （※6） | 方向性 （※7） | | |
| カナダ  | AAA | 1.62% （+0.03） | 83.24円 （+0.20%） | +1.7% 2019年3Q | 1.75% | 発表されたCPI（消費者物価指数）がほぼ市場予想並みとなった一方、製造業売上高や小売売上高が市場予想を下回る結果。今後の利下げ余地が低下したとの見方もある中、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | GDP（国内総生産）や景況感指数などが発表予定。現状の金融政策を適切と認識する中銀総裁の発言以降、市場がややこう着気味の展開となる中、債券・為替市場はともに現在の水準を是と見て一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  据置き局面 | | |
| ブラジル  | BB- | 5.93% （+0.21） | 26.69円 （+0.29%） | +1.2% 2019年3Q | 4.50% | 発表された産業信頼感や消費者信頼感には前月比で改善する内容。中銀が四半期インフレ報告において2020年GDP成長率見通しを2.2%に引き上げる中、レアルは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 全国失業率などが発表予定。前週末にかけ、米国との鉄鋼・アルミニウムへの追加課税の問題が回避されると報道され、その続報に注目が集まる中、レアルは引き続き底堅い動きを予想。 |
| | Ba2 |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| メキシコ  | A- | 6.85% （+0.14） | 5.78円 （+0.56%） | -0.3% 2019年3Q | 7.25% | 発表された登録雇用創出合計が前月を下回ったほか、小売売上高が市場予想を下回る内容。中銀がインフレ警戒姿勢を示す中、市場予想通り0.25%の利下げを実施、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 失業率や貿易収支などが発表予定。中銀の利下げへの姿勢がやや弱まっているとの見方が広がる中、金利の低下基調は短期的に弱まる展開を想定。為替市場は一進一退の展開を予想。 |
| | A3 |  金利低下 |  金利横ばい |  景気安定 |  利下げ局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|---|--|--|
| | | 12/20 （12/13との比較） 今後の見通し （※4） | 12/20 （12/13との比較） 今後の見通し （※5） | 前年比 （※3） 景気の方向性 （※6） | 先週末 方向性 （※7） | | |
| オーストラリア  | AAA | 1.29% （+0.03） | 75.51円 （+0.43%） | +1.7% 2019年3Q | 0.75% | 発表された景気先行指数は前月比で悪化した一方、雇用統計は雇用者数の伸びが市場予想を上回るなど良好な内容。失業率の低下も次回の利下げ見送りの見方をサポートする中、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。懸案となっていた米中通商問題が、合意に向け具体的な決定が徐々に発表されると予想される中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ニュージーランド  | AA+ | 1.63% （+0.05） | 72.24円 （+0.11%） | +2.3% 2019年3Q | 1.00% | 発表された貿易収支が市場予想を下回った一方、GDPは概ね市場予想並みの結果。前回のGDPの下方修正を嫌気する動きも見られたものの、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。今年の3回の利下げにより実体経済の下支え効果が今後現れ、次回の利下げは回避されるとの見方もある中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ノルウェー  | AAA | 1.51% （+0.03） | 12.20円 （+0.73%） | +1.3% 2019年3Q | 1.50% | 発表された貿易収支は前月比で改善した一方、失業率は市場予想並みとなる内容。中銀は政策金利を据え置いたが、今後の見通しも据え置き、タカ派スタンスを維持。ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。中銀のタカ派スタンス継続は当面続くものと予想、金利面での相対的な優位性から、ノルウェークローネは堅調な推移を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気拡大 |  据え置き局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|--|---|--|
| | | 12/20 （12/13との比較） | 12/20 （12/13との比較） | 前年比 （※3） | 先週末 | | |
| | | 今後の見通し （※4） | 今後の見通し （※5） | 景気の方向性 （※6） | 方向性 （※7） | | |
| 南アフリカ  | BB+ | 7.20% （▲0.04） | 7.68円 （+1.91%） | +0.1% 2019年3Q | 6.50% | 発表された財政収支は前月比で改善する内容。格付け会社が国債格付けを据え置き、投資家の買い安心感が強まったこともあり、国債利回りは低下。ランドは対円で上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。国債の格下げリスクがやや低下したことや、米中貿易交渉の進展など外部環境が改善傾向にある中、債券・為替市場ともにやや落ち着いた値動きとなる展開を予想。 |
| | Baa3 |  金利横ばい |  |  景気停滞 |  利下げ局面 | | |
| インドネシア  | BBB- | 6.51% （▲0.06） | 0.78円 （+0.22%） | +5.0% 2019年3Q | 5.00% | 発表された貿易収支は市場予想を下回る内容。中銀は市場予想通り政策金利を据え置き。声明文についてはハト派的であるとの見方が強まる中、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは低下。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。前週の中銀の声明文のハト派姿勢から、年明けの早い段階での追加利下げを予想する見方もある中、金利水準は低下基調が続くと予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| インド  | BBB- | 6.43% （▲0.16） | 1.54円 （▲0.70%） | +4.5% 2019年3Q | 5.15% | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。米中貿易協議を巡る不透明感の払拭は同国経済にプラス要因となるものの、原油価格上昇のインフレへの悪影響の懸念もあり、インドルピーは対円で下落。国債利回りは低下。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。年末に向け、市場に影響を与える要因に欠け、小動きが予想される環境下、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気回復 |  利下げ局面 | | |

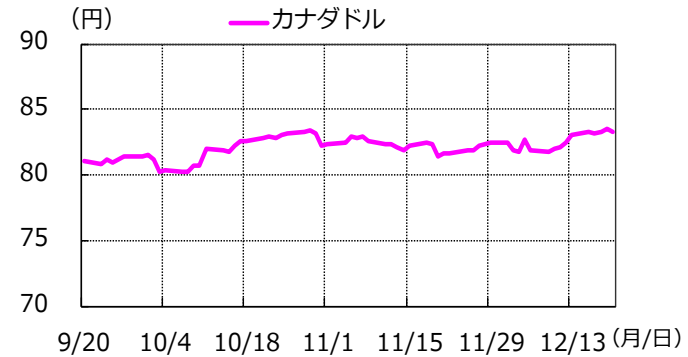
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

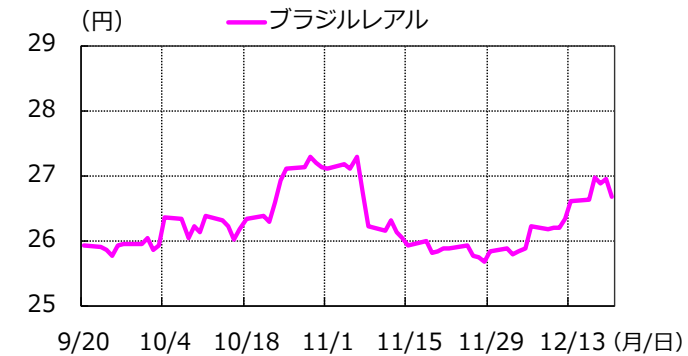
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/20~2019/12/20

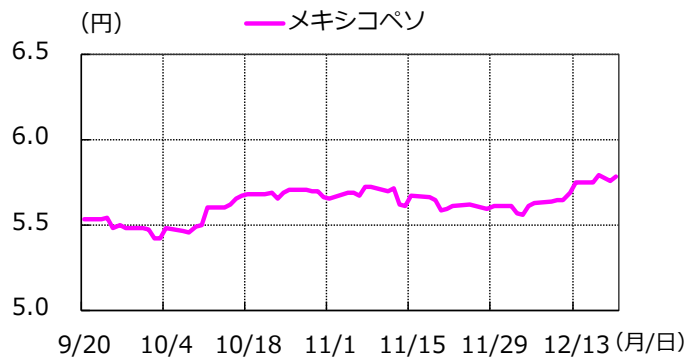
カナダ



ブラジル



メキシコ

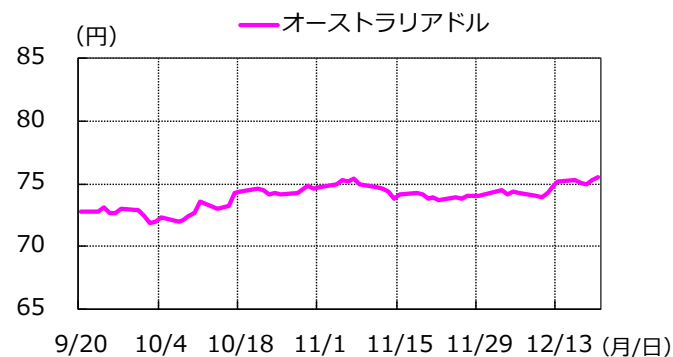
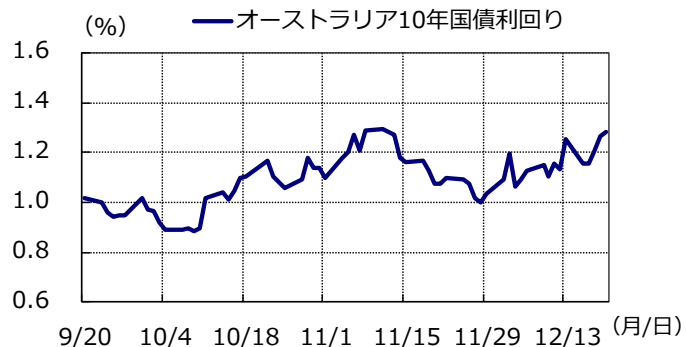


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

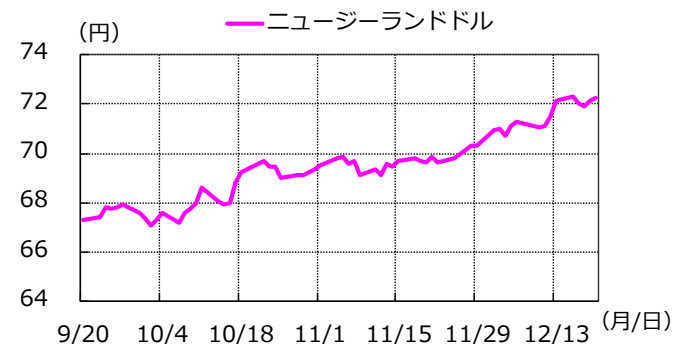
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/20~2019/12/20

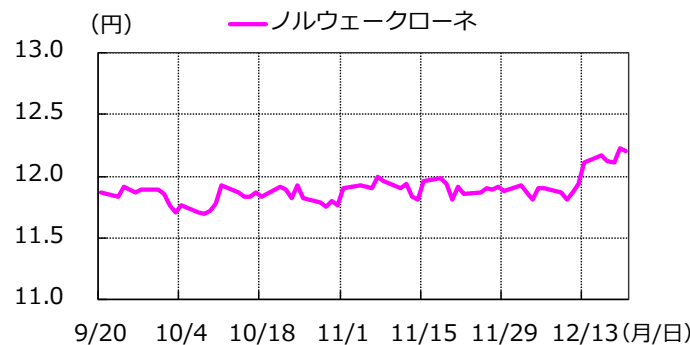
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

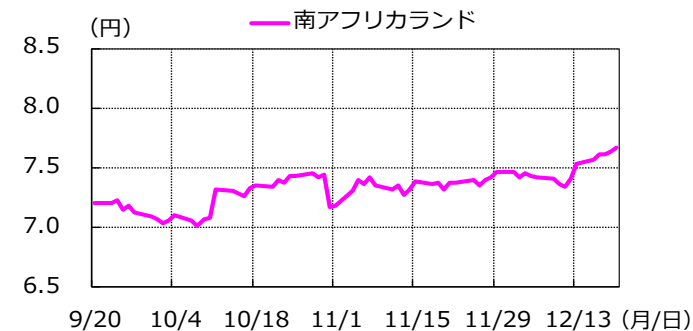
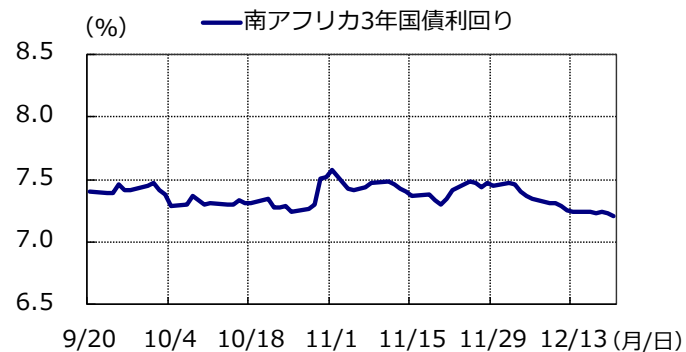


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

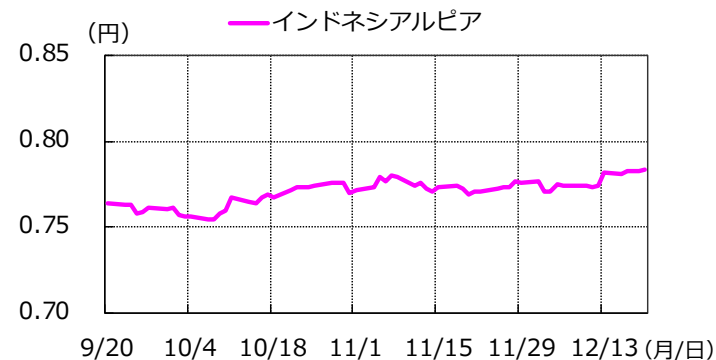
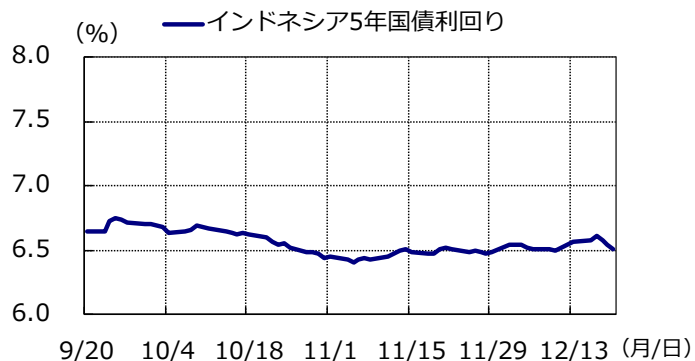
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/20~2019/12/20

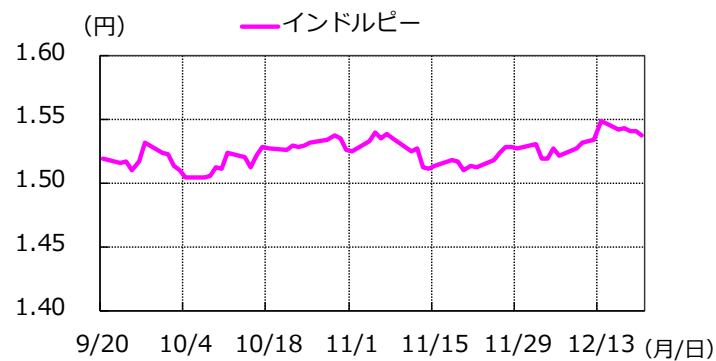
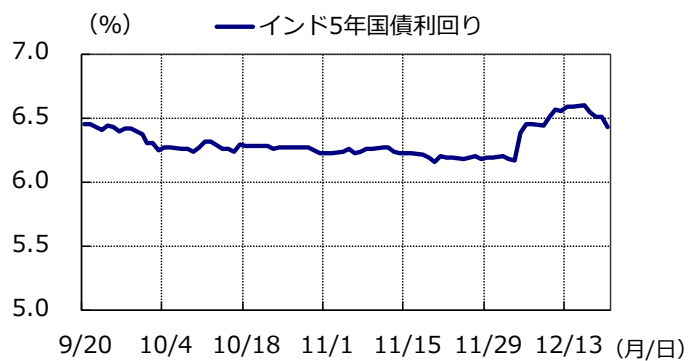
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。